

# ごけん

平成 23 年

春

号

## 日本語検定 実施予定

平成 23 年度第 1 回 (通算第 9 回)

[一般会場] 6月18日(土)

[準会場] 6月17日(金)・18日(土)

[申し込み期間] 3月1日(火)～5月20日(金)



日本語検定公式キャラクター「にほんご」

## もくじ

ごけんインタビュー 山口 仲美	2
採点室から	4
知らなかった! 日本語の歴史②	5
にほんごん にほんご劇場	6
第2回日本語大賞審査結果	7
平成22年度 受賞団体・受賞者の声	8
ごけん情報板	10
イベントのお知らせ	11
受検案内/プレゼント・クイズ	12

## 「びちびち」は何の音？

古典なんて大嫌い！と思っていらっしゃる方が多いかもしれません。古い言葉で綴られていると考えた途端に、分からないに違いないと思ってしまうのも、その原因の一つでしょう。でも、よく観察すると、古典の言葉は意外に身近で面白い。

たとえば、「びちびち」という擬音語を思い浮かべてください。すごく現代的で、コミックなんかに出て来そうな言葉でしょう？

ところが、「びちびち」は、すでに平安時代には使われていた古い言葉なんです。『落窪物語』という平安中期の作品の、次のような場面に登場しています。

爺さんが若い女性と結婚しようと思っ  
て薄着でおしゃれをして、夜、彼女の部屋にやってきた。彼女は、継母の回し者である爺さんとは絶対に結婚したくない。だから、部屋の中に入れまいと、内側にたくさんの荷物を置いてバリケードを築く。戸はなかなか開かない。季節は冬。夜の寒さが爺さんの足元から這い上がってくる。爺さんは体が冷え切って腹痛を起こし「びちびち」と音を立てて下痢便をたらしてしまう。すごく汚い場面で見ると全く同じ意味で「びちびち」が使われています。

## 「うらうら」「すくすく」も古い言葉

古典の言葉には、こんなふうに関心を持ちたい。私たちが日常使う身近なものがたくさんあります。「うらうら」「さやさや」「すくすく」「そ

## 古典の言葉は意外に身近で面白い

よ」などの言葉も、なんと奈良時代の人々からずうっと使い続けてきた日本語なんです。古典の言葉は、特別な異次元にあるわけではありません。昔の日本人が生み出し、現代の私たちに継承されているものが多いのです。

もちろん、「たまふ」「たてまつる」「ものす」などをはじめ、現在では使っていない言葉もあります。でも、こういう現代にはない言葉よりも、現代語に流れ込んでいる言葉の方が、ずっと多い。つまり、古典語の半分以上は、現代語と共通しています。だから、恐れるにたりない。現代人にも、落ち着いて読めば分かるのです。

## 茨を何と読む

そのうえ、昔の言葉は、書き記したりする時にも、予想以上にウィットに富んでいます。たとえば、江戸時代の『南総里見八犬伝』に「茨」という漢字があります。あなたなら何と読みますか？ ちょっと機転をきかせて読んでみてください。正解は「ざんぶ」。「ざぶざぶ」「ざぶり」などと同じような意味を持った擬音語です。決闘の場面で、主人公が相手と組み合っ  
て激しく争っているうちに、ともに襟袷の上から利根川に転げ落ちた時の水音を表しています。「水」に「入る」を組み合わせた漢字で「ざんぶ」と読ませる。「水」に勢いよく「入る」と「ざんぶ」と音がしますからね。機知に富む江戸時代の漢

字表記です。

擬音語・擬態語は、「ざんぶ」などと、仮名で書くのが普通です。でも、江戸時代ではしばしば漢字で書いて振り仮名をつけます。「発石と」「丁と」「滾滾と」「楚と」などと。「はっしと（受け止める）」ではなく、「はっし」と書くと、「ハッシ」という音の他に、漢字の意味が加わります。石が投げつけられたかのようなイメージを帯び、固い物が一直線に的に向かっていく様子が強調され、それを受け止める強烈な力を感じさせます。仮名書きにはない効果ですね。江戸時代の人々は、擬音語・擬態語を漢字で表記することによって、仮名書きにはないイメージを付加しているんです。

## 古語は現代語のルーツ

こんなふうに関心を持ちたい。私たちが使う身近な言葉があふれ、ある時には、見事な創意工夫を感じさせる表記が見られる。だから、古典を読んでいると、「あら、そんなに古くからある言葉だったの。」「まあ、面白い書き方ね。昔の人もなかなか隅に置けないわ。」と、驚いたり、感心したりする。つまり、発見がある。そんな古語の楽しさを味わっているうちに、いつしか「なあんだ、古典って読める」となって、読み始める。すると、『徒然草』の作者の兼好法師が、女好きの心を隠し持っていることが分かったり、『方丈記』の



山口仲美 (やまぐち なかみ)  
1943年静岡県生まれ。日本語学研究者。東京大学大学院修士課程修了。文学博士。明治大学教授。『日本語の歴史』(岩波新書・日本エッセイストクラブ賞受賞)、『犬は「びよ」と鳴っていた』(光文社新書)、『ちんちん千鳥のなく声は』(講談社学術文庫)、『平安文学の文体の研究』(明治書院・金田一京助博士記念賞受賞)など、著書多数。



『日本語の古典』  
山口仲美  
(岩波新書)

作者の長明さんがみごとなドキュメンタリーの書き手だったりすることが把握できて、ますます面白くなる。嫌いだったはずの古典がいつの間にか好きになっている。実は、そんなことを目指して書いたのが、近刊の拙著『日本語の古典』(岩波新書)です。

奈良時代の『古事記』から江戸時代の『春色梅児誉美』までの歴代の名作三〇を取り上げ、言葉や表現からその魅力を解き明かしたものです。あなたが古語をいとしく思い、古典が大好きになると、言葉への興味がつのり、日本語検定もら〜くらく。

■1・2級には、□に入る適切な漢字一字を書き、その言葉を適切に用いている文を選ぶという問題が出題されています。その中で難しかったと思われる問題のいくつかを、誤答例とともに紹介しましょう。

【気□奄奄】(1級問題—正答率 23.2%)

- ① 彼は同志の奮起を促し、気□奄奄と長広舌を続けた。  
 ② 連日の猛暑に体調を崩し、気□奄奄としている。  
 ★(誤答例)「気気奄奄」で①。(正答)「氣息奄奄」(きそくえんえん)で②。

【隠□自重】(2級問題—正答率 26.6%)

- ① うまく隠□自重して、人に見つからないよう行動する必要がある。  
 ② 今は隠□自重して、好機をじっと待つことにしよう。  
 ★(誤答例)「隠匿自重」で①。(正答)「隱忍自重」(いんにんじちょう)で②。

【信賞□罰】(2級問題—正答率 22.2%)

- ① 各人の働きを正しく評価して、信賞□罰を行うことが大切だ。  
 ② 今回は、極めて不公平な評価による信賞□罰が行われた。  
 ★(誤答例)「信賞処罰」で②。(正答)「信賞必罰」(しんしょうひつぱつ)で①。

(以下は、難問ではないのですが……)

■3・4級には、パソコンで文を入力したときの単語の変換ミスを指摘する(誤っている言葉の正しい書き表し方を記入する)問題が出題されています。その中で比較的正答率が低かったのは、次のような問題でした。

○DVD版には、得点として、最先端技術を駆使した撮影の裏話も収録されている。  
 (3級問題—正答率 30.7%)

★「得点」が「特典」となるのが正しいのですが、「特点」とする回答も目立ちました。

○進級要件を満たせず留年した場合も、前年度に修得した単位は有効です。  
 (3級問題—正答率 37.0%)

★「進級要件」が「進級要件」となるのが正しいのですが、他の言葉を誤りと考えた解答も多くありました。たとえば、「修得」を「習得」や「取得」にするなどです。

○ある女優の激動の反省を振り返った自伝が、ベストセラーになった。  
 (4級問題—正答率 32.2%)

★「反省」は「半生」が正しいのですが、「半世」とした解答がかなりありました。

○この春、兄は大学を卒業して地元の企業に就職し、僕は中学三年に新旧します。  
 (4級問題—正答率 51.2%)

★「新旧」は「進級」が正しいのですが、「新」の字が印象に残ったせいか、「新級」とした解答も多くありました。

■1・2級の問題は、その言葉を知らないと、入れる漢字自体は易しいけれど、正答に至らないということはあるでしょう。下の3・4級の問題のほうは、一文の中で誤っているものを見つけるといったステップがあるとはいえ、書くのがさほど難しい熟語ではないので、正答率が低いのは残念です。漢字を書く力が弱くなっている人が多いことを、検定のたびに実感させられます。

富士山の「富士」と藤の花の「藤」は現代仮名遣いではどちらも平仮名で「ふじ」と書きます。現代日本語では発音もともに「フジ」です。しかし、歴史的仮名遣いでは「富士」は「ふじ」、「藤」は「ふぢ」と書き、「じ」「ぢ」と仮名に違いがあります。歴史的仮名遣いで「じ」「ぢ」と書き分けがあるということは、古代日本語では「じ」と「ぢ」の発音が本来異なっていたことを意味します。

歴史的仮名遣いは、江戸時代の僧である契沖(1640～1701)が提唱した仮名遣いで、仮名遣いの根拠を万葉仮名に置いています。万葉仮名とは、奈良時代以前から行われていた、漢字を利用して日本語を書き表す表記法で、漢字一字で日本語の仮名一字を表す場合は当時の日本語の発音を反映しています。『万葉集』(8世紀)では、万葉仮名で「富士」は「不自・布士・布仕・布自」、「藤」は「布治」と書かれています。「自・士・仕」はシの濁音、「治」はチの濁音を表します。

平安時代に円仁が著した『在唐記』(9世紀中頃)という本には、古代サンスクリット語(梵語)の発音と漢字音・日本語の発音が比較されていて、それによると平安時代のタ行「た・ち・つ・て・と」は「タ・ティ・トゥ・テ・ト」と発音されていたと考えられます。つまり、平安時代の仮名の「ち・つ」の発音は「ティ・トゥ」です。タ行の濁音であるダ行は「ダ・ディ・ドゥ・デ・ド」と発音されていました。「ぢ・づ」の発音は「ディ・ドゥ」です。平安時代のハ行は「ファ・フィ・フ・フェ・フォ」と発音されていたので、「藤」は平

安時代には「フヂイ」と発音されていた。藤原は「フヂイファラ」と発音されていたことでしょう。

『在唐記』によると、平安時代のサ行はだいたい「シャ・シ・シュ・シェ・ショ」という発音であったと考えられます。サ行の濁音は「ジャ・ジ・ジュ・ジェ・ジョ」となります。平安時代には「富士」は「フジ」と発音されていました。

「富士」は「フジ」、「藤」は「フヂイ」と発音上でははっきり区別されていたのです。しかし、室町時代後半までにタ行の「ち・つ」の発音が「ティ・トゥ」から「チ・ツ」に変化しました。タ行の発音が「タ・チ・ツ・テ・ト」になったのです。現代日本語のタ行の発音はこの時期に成立しました。それと同時に濁音ダ行の発音も「ダ・ヂ(ジ)・ヅ(ズ)・デ・ド」となりました。

キリシタン資料のローマ字表記によると、室町時代末期のサ行・ザ行の発音は「サ・シ・ス・シェ・ソ」「ザ・ジ・ズ・ジェ・ヅ」でしたので、「ぢ・づ」の発音「ディ・ドゥ」が「ヂ・ヅ」に変化したことによって、「ぢ・づ」の発音がザ行の「じ・ず」の発音「ジ・ズ」とほぼ同じになってしまったのです。従って、室町時代末期以降の日本語では、歴史的仮名遣いの「じ」と「ぢ」を発音上で区別することができなくなってしまいました。

「じ・ぢ・ず・づ」の仮名は「四つ仮名」と呼ばれ、その書き分けは現代仮名遣いにおいても多くの問題を残しています。

あさかわ てつや/首都大学東京 准教授。  
 専門は日本語学・日本語史。  
 博士(文学)



絵：福政真奈美

「目は口ほどに物を言う」

感情のこもった目つきは、口に出して言うのと同じくらい気持ちを伝えられるものだ。

例 君の本心は隠したってわかるよ。  
目は口ほどに物を言うというからね。



「日本語大賞」NPO 法人として初の表彰式！

「日本語大賞」は2009年、東京書籍株式会社が創立100周年を記念して、日本語の持つ美しさや言葉の力を見直そうという趣旨で創設した賞です。

その「日本語大賞」を、第2回からは、NPO 法人日本語検定委員会が引き継ぐこととなり、今回は「日本語の魅力」をテーマに児童から大人まで広く作品を募集いたしました。

ご応募いただいたエッセイ・作文は、小学校部門341点、中学校部門381点、高校部門215点、一般部門211点の計1,148点に及びました。第一次、第二次の審査を経て、8名の審査委員による最終審査が行われ、部門ごとに以下の優れた作品が選ばれました。



最優秀賞

- 小学校部門 **横井 美友** (愛知県日進市) 「ねえ、ばあちゃん」  
日進市立西小学校 6年生
- 中学校部門 **山本 裕麻** (兵庫県西宮市) 「魔法をかける色」  
武庫川女子大学附属中学校 3年生
- 高校部門 **谷井 嶺太** (東京都武蔵野市) 「日本語に学ぶ心」  
東京学芸大学附属国際中等教育学校 4年生
- 一般部門 **出頭 佳子** (東京都世田谷区) 「ざらざら」

表彰式は、去る2月27日に、東京書籍別棟ホールで行われました。梶原しげる審査委員の司会で、各受賞者にインタビューするなど、温かい雰囲気の中で執り行われました。梶田叡一審査員長の講評にもありましたように、どの受賞作も、「日本語の魅力」が豊富な語彙をもってさまざまな角度から書かれており、一語の中に込められる様々な思い、擬声語・擬態語のもつ微妙で多彩な表現など、日本語の美しさ、奥深さを改めて気づかせてくれる力作でした。

最優秀賞には、表彰状と盾、副賞として賞金が授与されました。

## 平成 22 年度受賞団体・受賞者の声

日本語検定  
表彰団体の声

### ウィステリア科での取り組み

日本語検定委員会特別賞 中高一貫校・高等学校部門 最優秀賞

京都女子高等学校 平田 義隆 先生

本校は、普通科に加え、専門学科「ウィステリア科」を設置しています。この学科では、国際社会で活躍できる人材の育成を目標に、様々な活動に取り組んでいます。その大きな柱の1つに「日本文化の理解」があります。海外の文化を理解することも大切ですが、まずは自国である日本文化を正しく理解してほしいということから、茶道や華道のお稽古を授業に組み入れ、様々な伝統文化体験や伝統芸能鑑賞を通して日本文化を学習しています。これは言語についても同様であると考え、本学科では英語や国語の授業を重視しています。その言語活動の一環として本年度より日本語検定を受検しています。

日本人として、日本語を正しく使うことができるのは、一見当たり前なのですが、今どきの高校生は、なかなかできていない

のが現状です。書かれている日本語が正しく理解でき、また正しい日本語で自分の思いを表現できることが、今の日本人に求められていると思います。戦後、ものづくりで発展してきた日本が高度情報化社会に突入し、様々な情報が大きな価値を生み出す現代社会において、言語能力の重要性はますます高まってきていると言えるでしょう。こういったことから日本語検定の受検を視野に入れた学習活動に取り組むことは、非常に大切なことだと思っています。

日本語検定の受検が、これから社会人となる本校生徒たちの大きな財産になっていくことを願い、今後も日本語検定の実施を続けていきたいと考えています。



日本語検定  
表彰団体の声

### 日本語をあらためて学ぶ良い機会

日本語検定委員会特別賞 一般部門 優秀賞

武州ガス株式会社 社長室人事グループ 田中 覚 さん

当社ではガス事業の業務に関連するガス主任技術者等の技能資格のみならず、社会人としての知識、技能の向上と、社会人としての素養を高めるため、パソコンや漢字、英語をはじめ幅広い分野の資格取得と通信教育の受講を社員に対し奨励しています。

昨今、若年層においてコミュニケーション能力が低下していると言われています。企業の採用担当者が学生との面接で重視していることとして「コミュニケーション能力に長けていること」が



上位にランクされるほど、コミュニケーション能力の保有は今や非凡なものとなっています。コミュニケーションの源となるのは「日本語」ですが、話し言葉においても文章においても、正しく使われていない状況が見受けられます。

学生時代は日本語を国語等の教科で学ぶことができましたが、社会人になって日本語をあらためて学ぶ機会はほとんどありません。一方、会社では社内、お客さまとの連絡には今や電子メールは欠かせないものとなっています。メールの文中での敬語、語彙、文章の不適切な使用により、会社の信用、信頼を失いかねま

せん。お客さまとの接客時においても同様で、社会人として日本語の正しい使い方は一層、重要なものになっています。

そこで、人事グループの有志が日本語検定を試験的に受検し、3級の出題項目が社会人として必須なものであると判断しました。そして、本検定を当社の奨励する資格として設定し、平成 22 年 11 月には社員の約半数にあたる 101 名が受検しました。本検定は正しい日本語の使い方をあらためて気づかせてもらえる良い機会になったと思います。今後とも全社員の認定に向けての取り組みを続けていきます。

日本語検定  
表彰者の声

### 日本語検定を受検して

東京書籍賞 優秀賞 (3 級)

常陸太田市産業部商工観光課にぎわい交流推進室 額賀 愛美 さん

多くの日本人は、日本語を普段何気なく使っているのではないかと思います。もちろん私自身も日本語を意識せずに使っている一人です。一言で日本語といっても、漢字や語彙のほかにも、文法や敬語の用法、慣用表現など、実にさまざまな要素から成り立っています。意識せずに使っているからこそ、とっさに誤った表現を使ってしまうことや、誤った用法を正しい用法であると思い込んで使ってしまうこともあるということを、今回の受検を通して改めて感じました。

学生から社会人となり、それまでとは違って、さまざまな年齢や職種の方と接する機会が増え、「正しい日本語」の使い方を意識することが多くなりました。なかでも、自分を取り巻く環境が学生の時とは大きく異なり、目上の方が中心になっ

たことから、それまであまりなじみのなかった尊敬語や謙譲語などを使う機会が多くなったため、戸惑うこともあり、自分の勉強不足を強く感じ、改めて勉強するのに、今回の受検はとて素晴らしい機会になりました。

今回、研修の一環として日本語検定を受検し、幸運にも優秀賞をいただくことができました。しかし、初めて聞く言葉や用法に出会うことがまだ多くあることに加えて、試験のときはわかっている、それを日常に反映できていないという状況が多いことも確かです。今回の受賞に慢心せずに、日本語検定の受検を通して日本語力の向上を目指し、日常生活や業務に活かしていきたいと思っています。





左より、吉川貴司さん、コンバット満さん、津野瀬アナウンサー、中村萬里先生

このコーナーは、毎週月曜日 17 時 30 分頃から約 5 分間放送しています。

いつも何気なく使っている日本語ですが、言葉遣いを間違えていたり、正しく理解しないまま不適切な使い方をしたりしている場面が多くあります。また、「敬語」や「語彙」「漢字」なども知っているようで知らないものだけです。

そこで、当番組では昨年 12 月より日本語を見直そうと、中村萬里先生（筑紫女学園大学教授）ご指導のもと津野瀬果絵アナウンサーが出題し、コンバット満さん & 吉川貴司さんが解答する日本語クイズ「まんてん! 日本語!」のコーナーを始めました。また、コンバット満さんは 6 月に実施される日本語検定を受検することとなり、3 級合格に向けて頑張っています。

このコーナーを機に視聴者の皆さまと一緒に「正しい日本語」「美しい日本語」を楽しく勉強していきたいと思っています。皆さまの応援をよろしくお願いいたします。

担当：生駒央正  
(テレビ西日本 制作部 プロデューサー)

放送予定

TNC テレビ西日本「ハチナビプラス ギュギュっと!」  
月曜～金曜 16:53～  
「まんてん! 日本語!」は月曜 17:30～

イベントの  
お知らせ

## 「読売新聞×日本語検定 in 羽田空港」

4/29・30

羽田空港で日本語検定のイベントを行います!

ステージにはパクンマクンや梶原しげるさん（日本語検定委員会審議委員）が登場!

その他多数のゲストをお呼びして、日本語にちなんださまざまな催し物を行います。

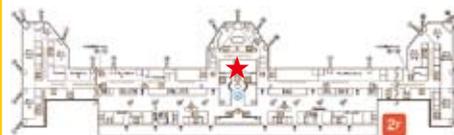
また、参加賞（日本語検定特製エコバッグ）がもらえるクイズラリーや、その場で日本語力がチェックできるミニテストをご用意しています。

期間中に羽田空港をご利用の方、ぜひお立ち寄りください。  
皆様のご来場をお待ちしております!



日時：4/29（祝・金）・30（土）  
10 時～ 17 時  
場所：羽田空港  
第 1 旅客ターミナル 2 階  
マーケットプレイス

Terminal 1 第一旅客ターミナル



# 平成23年度 第1回 日本語検定 受検案内

- [一般会場] **6月18日(土)**  
[準会場] **6月17日(金)・18日(土)**  
[申し込み期間] **3月1日(火)～5月20日(金)**  
[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検には、準1級または2級認定が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

## プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げたことわざは何でしょうか。○の部分<sup>1</sup>を補って完成させてください。

### 『○は○ほどに物を言う』

抽選で5名様に、ご希望の級の『日本語検定公式過去問題集 平成23年度版』をプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先(お電話またはメールアドレス)、ご希望の級を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成23年7月1日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



(応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。)

## 質問をおよせください!

日本語に関する質問を、お手紙やメールで、日本語検定委員会「ごけん質問箱係」までおよせください。  
いただいた質問の中から、日本語検定委員会・研究主幹の川本信幹先生がお答えします。  
\*ご質問は、日本語検定を受検された方か、受検を検討されている方に限らせていただきます。  
\*日本語に関する質問以外にはお答えいたしかねますので、ご了承ください。

メールアドレス

[info@nihongokentei.jp](mailto:info@nihongokentei.jp)

特定非営利活動法人

 日本語検定委員会

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1

【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>